

第 13 回和光市下水道事業運営審議会会議録

平成 2 9 年 2 月 1 6 日（木） 5 0 4 会議室

第 1 3 回 和 光 市 下 水 道 事 業 運 営 審 議 会			
開 催 日	平成 2 9 年 2 月 1 6 日 (木)	開会時間	1 4 時 0 0 分
会 場	市役所 5 階 5 0 4 会議室	閉会時間	1 5 時 0 0 分
委 員 の 出 欠	出席	欠席	事務局
	長坂 敏史 長坂 滋 安藤 強 山田 智好 近藤 やす子 富澤 美代 今井 千津子 舩越 靖彦 萩原 三枝子	本橋 淳男	上下水道部長 松橋 香二 企業経営課長 牧野 里行 下水道課課長 深野 充司 下水道課課長補佐 本橋 勝己 企業経営課統括主査 山崎智恵子 企業経営課主査 矢萩 美和 傍聴者 0 名
議 案	(1) 会議録署名委員の選出 (2) 下水道の経営状況について (平成 2 7 年度決算等) (3) その他		

発言者	内 容
事 務 局	開 会 本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。 それでは第 1 3 回和光市下水道事業運営審議会を開催いたします。 本日の会議は、和光市下水道事業運営審議会条例第 6 条第 2 項の規定により過半数の出席を得ております。 また、本日の会議は、市民参加条例第 1 2 条第 4 項の規定に基づき、公開とさせていただきます。あわせて、会議録につきましては、同条第 6 項の規定に基づき、公表してまいります。
上下水道部長	それでは、まず、上下水道部長からご挨拶を申し上げます。 皆様こんにちは。 本日はお忙しいところお集まりくださいますありがとうございます。 日頃より下水道事業についてご尽力いただき心から感謝いたします。 和光市下水道事業運営審議会は、おかげさまで第 1 3 回目を迎えました。下水道事

業は、企業化してようやく 3 年になります。完全に軌道に乗ったとは言えない部分もごございますが、一步一步進んでいきたいと思っております。また、前回の会議でもご説明いたしましたが、1 月から上下水道部の組織が変わりました。下水道事業の経営と運営の部分は新たに企業経営課が行うこととなりました。この後、あらためてご挨拶させていただきたいと思っております。

本日の主な議題は、平成 29 年度の下水道事業の予算の説明となっております。今月末から開会する市議会 3 月定例会に提出する議案で、議会による審議前のものがございます。そのため、取扱いには十分ご注意くださいようお願いいたします。

今後とも、審議会の皆様のご指摘やご要望を事業に反映して参りたいと思っておりますので、忌憚のないご発言をよろしくお願いいたします。

以上でございます。

事務局

続きまして、平成 29 年 1 月から和光市役所の組織改正により下水道事業運営審議会を所管することとなりました、上下水道部企業経営課長からご挨拶申し上げます。

企業経営課長

本年 1 月 1 日より企業経営課長を拝命いたしました牧野です。どうぞよろしくお願いいたします。

今回の組織改正により、水道事業と下水道事業の管理部門が企業経営課に統合され、主な所掌事務として、①上下水道事業の予算・決算及び出納その他会計事務に関する事、②上下水道事業の資産の取得及び管理に関する事、③上下水道事業の職員の給与等に関する事などを所管することになりました。

本審議会に関する事務も所管することとなりますので、委員の皆様におかれましては、これまで同様、平成 30 年 5 月末の任期までご協力をよろしくお願いいたします。

事務局

議事に入る前に、委員の交代がありましたので委嘱を行います。

このたび、和光市下水道事業運営審議会条例第 3 条第 2 項第 2 号に該当する委員としてご活躍いただきました、本田技研工業株式会社、安藤強様に代わり、本田技研工業株式会社、村上誠二様に当審議会の委員を委嘱させていただくこととなりました。

松橋部長から委嘱書をお渡しいたします。

【委嘱書交付】

それでは、議事に移りますので、長坂会長、よろしくお願いいたします。

長坂会長

それでははじめに、本日の会議録署名委員の指名を行います。

第 2 号委員の長坂委員と第 4 号委員の萩原委員にお願いしたいと思いますが、両委員、よろしいでしょうか。

【両委員了承】

それでは両委員、よろしくお願いいたします。

次に、議題(3)につきまして事務局から説明をお願いします。

下水道課長

こんにちは。下水道課長の深野です。組織は変わりましたが、引き続きよろしくお願いいたします。

それでは、議題(2)下水道の経営状況について、ご説明いたします。

お手元の資料の1ページ、「平成28年度埼玉県和光市下水道事業予算(案)」をご覧ください。

先程、部長からも説明がありましたが、この資料はあくまでも案であり、議会による審議前のものですので、取扱いにはご注意ください。よろしくお願いいたします。

それでは、資料1の第2条、業務の予定量から説明いたします。併せて、平成28年度の予算書の写しである資料4も対比してご覧ください。

平成29年度予算における水洗化世帯数は、38,500世帯を予定しています。平成28年9月現在、和光市の水洗化世帯は37,427世帯ございました。資料4の平成28年度の予定量である38,000世帯よりも下回っていますが、例年、この数字は過去3年分の世帯数の伸び率で算出しておりますので、同様の方法により、平成29年度は38,500世帯といたしました。平成29年度の予定と平成28年9月現在の実績とは約1,000世帯乖離していますが、和光市内では、区画整理事業の進展による宅地の分譲等により、新規の下水道利用者が増えておりますので、この数字を見込んでいます。この数字に向けて努力していくことになります。

続いて年間処理水量ですが、平成29年度は12,300m³の増加を見込み、8,697,000m³といたしました。これに伴い、使用料収入は、平成28年度の見込み額である約6億4,800万円から、平成29年度は約450万円増加の約6億5,300万円を見込んでいます。

主な建設改良事業については、和光市駅北口土地区画整理地区内汚水整備事業について、昨年度の3,207万6千円から3,682万8千円に増額しております。和光市駅北口土地区画整理地区内の下水道工事については、下水道課が請け負う予定です。なお、以前もお話しましたが、下水道事業は企業として運営をしておりますので、実際には工事の額に5%の手数料を上乗せした額が収入されることとなります。

次に、収益的収入及び支出について説明いたします。

これは、管の補修、光熱水費の支払い及び修繕費の支払い等の維持管理に関する収支です。下水道事業収益は、11億4,263万9千円で前年度に比べ419万3千円の増額となっておりますが、主な内容は、皆様からいただく下水道使用料や雨水処理に係る費用を市が負担する他会計負担金となっております。下水道事業費用は、10億4,106万5千円で、前年度に比べ1,078万5千円の増額となっておりますが、これは、下水道管の修繕等に充てる費用を増額したことが主な要因となっております。

和光市内の下水道管は、昭和４０年代に布設したものもあり、カメラを使った調査等を行うと、ひび等の劣化が見受けられることもあり、それらの修繕を行うための費用等を計上しています。また、荒川右岸流域下水道事業維持管理負担金という処理料を年間約３億円支払っていますが、これも収益的支出に計上しています。

下水道事業費用の大まかな内訳は、資料中の予算に関する説明書をご参照いただきながら説明いたします。営業費用の主な内容は、管渠費といって雨水や汚水の処理に関する費用や、総係費という人件費や消耗品費等の支払いに関する費用です。営業外費用の主なものは、過去から借入れをしてきたお金の利息の支払いに関する費用や納付消費税となっています。

次に、資本的収入及び支出について説明いたします。

一般的に私たちが家を購入すると、その際に費やした費用は個人の資産になります。下水道では、費用を投下して下水道管を布設した場合に、資産として計上することとなります。このように、資産となる部分の収支が資本的収入及び支出です。

資本的収入は１億２，７２６万２千円を見込んでいて、こちらには、企業債といって下水道事業が事業を行う際に借り入れるお金の４，７４０万０千円、雨水関係の工事費としての市からいただく他会計負担金７，９７４万２千円、貸付金償還金として１２万円を計上しています。資本的支出は５億３，５９２万７千円で、建設改良費として雨水管建設費用に６，０７７万３千円、汚水管建設費用に６，５５３万６千円、荒川右岸流域下水道事業建設負担金として１，８３４万９千円、企業債償還金として３億８，５９６万９千円、水洗便所改造貸付金として３０万円を計上しています。なお、貸付金は、トイレの水洗化を行う市民に費用の一部を無利子で３０万円までお貸しするための予算です。平成１５年頃に制度を創設し、これまでに３件の実績がございます。

以上のとおり、下水道事業の予算は、資産の取得に充てる部分の予算と、それを維持管理していく予算で構成されています。この中で、今年度も最大限の利益を生めるよう、努力して参ります。

次に、キャッシュ・フロー計算書をご覧ください。

キャッシュ・フロー計算書は、１から３までの項目で構成されていますが、１業務活動によるキャッシュ・フローは、事業を進める上での収入や人件費等に必要なお金の動きを表しています。２投資活動によるキャッシュ・フローは、財産の取得や工事等の費用に関するお金の動きを表しています。３財務活動によるキャッシュ・フローは、企業債による収入と償還に関するお金の動き等を表しています。

これらの活動による結果が一番下の数字４９，８６５，２７０円で、平成２９年度末に残るであろう現金の額となります。

次のページの平成２８年度和光市下水道事業予定損益計算書（前年度分）をご覧ください。これは、平成２９年３月３１日までの予想の損益計算書です。

なお、損益計算書は税抜きで表されるものですのでご注意ください。

1 営業収益の(1)下水道使用料は、市民の皆様が下水道を使用した分の料金収入です。(2)他会計負担金は、市からいただいている雨水処理に係る収入です。(3)その他営業収益は、指定工事店制度に基づいて新規の登録を受けた事業者や、更新を迎えた事業者が納める手数料等の収入です。

2 営業費用の(1)管渠費（雨水）は雨水管の維持管理等の費用、(2)管渠費（汚水）は汚水管の維持管理等の費用、(3)総係費は人件費や事業全体に係る費用、(4)減価償却費は資産の劣化部分を表したものの、(5)資産減耗費は資産の廃棄部分の額を表したものです。(5)資産減耗費は、具体的には、市内15箇所に設置しているマンホールポンプに関するものです。下水道の自然流下が出来ない箇所にポンプを入れて処理場まで流しているのですが、このポンプは毎年1箇所ずつ入替えを行っています。入替えを行った分は廃棄処理になるため、その分を資産減耗費として計上しています。

3 営業外収益の(1)受取利息及び配当金は預金利息等の収入、(2)他会計補助金は市から援助を受けている分の収入です。(3)長期前受金戻入は減価償却費に関する科目で、会計制度上設けられたものです。その他、(4)雑収益となっています。

4 営業外費用は企業債の利息を支払うための費用である(1)支払利息及び企業債取扱費と(2)の雑支出で構成されています。

5 予備費は毎年500万円ずつ計上しますが、基本的には使用しないものです。6 特別利益、7 特別損失と続き、最終的には99,139,000円の利益を見込んでいます。

ここで、資料3をご覧ください。これは、平成27年度の決算の数字です。

平成26年度及び平成27年度決算を終えた時点で、下水道事業は表の右下の数字58,855,963円の繰越欠損金が発生しました。この数字は、議会の議決も得ており、現金を伴う欠損ではないのですが、実際はマイナスの状態です。これを先程の利益額99,139,000円から差し引いた額の約4千万円が利益剰余金として平成29年度に繰越されることとなります。

次のページの平成29年度和光市下水道事業予定損益計算書（当年度分）をご覧ください。平成29年度の当年度純利益は、100,112,000円を見込んでいます。ここに、約4千万円の繰越利益剰余金を加え、当年度末処分利益剰余金は140,395,037円を見込んでいるということになります。

次のページの平成28年度和光市下水道事業予定貸借対照表（前年度分）をご覧ください。

1 固定資産と2流動資産は、下水道事業が保有する資産を表しています。△は、減価償却の額を表しています。

1 固定資産(1)有形固定資産は、イからトまでの項目で示しています。イは土地で、ロの建物は、レインボーモータースクール近くの雨水の貯留槽のことです。

ハの構築物は、管路施設です。二の機械及び装置は、ポンプや発電機等です。ホの車両は、下水道事業が保有する二台の自動車ですが、ご覧のとおり、資産価値としては非常に低くなっている状況です。ヘの工具器具及び備品は、主に管路内を見るためのカメラ一式です。トの建設仮勘定は、数箇年に渡る事業で、設計が終了しても工事が終了しない場合などに一部を留保しておく勘定です。

(2)無形固定資産には、イ施設利用権とありますが、これは、荒川右岸の処理場施設を利用する権利のことです。

(3)投資その他の資産については、イの出資金は、過去に行った埼玉県下水道公社への出資で、ロの長期貸付金はトイレの水洗化工事をする方のための貸付金に関するものです。

2 流動資産には、(1)現金預金の額、(2)未収金、(3)その他流動資産とありますが、未収金とは基準日現在でまだ納入されていない分のお金です。最終的には12,782,509,558円という数字が出ます。

次に、次のページの負債の部をご覧ください。

3 固定負債(1)企業債は、これまでの借入額の合計を示しています。

4 流動負債(1)企業債は、平成29年度に償還する予定の額を示しています。

(3)引当金は、6月賞与の算定が年度をまたぐものであるため、次年度分を準備しておくものです。

次に、資本の部は、下水道事業の財産を資本として表したものです。最終的には12,782,509,558円という数字が出ます。

この数字は、前ページの二重線の数字と一致することとなります。

平成30年度末時点の貸借対照表についても、同様です。

以上で説明を終了いたします。

長 坂 会 長

詳細な説明をありがとうございました。普段はなかなか見ることのない数字ですね。

何か、ご質問はありますか。

では、私から質問します。

下水道課課長補佐

損益計算書の資産減耗費は、平成28年度が131,000円で平成29年度が24,000円となっています。異なる数字が出ていますが、この差は何ですか。

先程の説明のとおり、マンホールポンプは毎年一箇所ずつ交換しています。資産計上の方法としては、資産価値を一度ゼロにして新たな資産を追加するというものです。平成28年度は、残存価額が131,000円のを除却するため、平成28年度の資産減耗費は131,000円となり、平成29年度は、残存価額が24,000円のを除却するため、平成29年度の試算減耗費は24,000円となっています。

マンホールポンプの取替え工事は、工事費用全体で約200万円で予算計上してお

長 坂 会 長	り、工事後は、新たな資産として固定資産台帳に2基追加します。耐用年数15年で、毎年減価償却していきます。
上下水道部長	毎年減価償却していて、交換時に帳簿残高を消しているということですね。
	ポンプ自体の耐用年数は15年で、15年より前であれば残存価額が高くなります。企業会計上、資産は最終的に残存価額が5%で残るので、そのような経緯から残存価額が24,000円となっているものと考えられます。実際には、15年以上使えるものもありますので、そのようなものは使うということだと思います。
下水道課長	15箇所全てを同時期に設置したわけではないので、24,000円の分については、おそらく、設置時期からだいぶ時間が経ったものなのだと思います。
長 坂 会 長	資産減耗費という勘定科目については、一般企業の会計では、「除却損」として計上しますが、「資産減耗費」というのは、規程等に基づいた科目ですか。
上下水道部長	はい、「除却損」ではなく、「資産減耗費」としての計上です。
長 坂 会 長	一般企業の会計とは違うのですね。
	他にございますか。
	それでは、下水道事業の経営状況については終了いたします。
	その他、事務局から何かございますか。
下水道課課長補佐	はい。
	それでは、資料4をご覧ください。建設改良事業の繰越しについて説明いたします。
	資料4は、平成28年度予算の写しです。
	第2条(4)主要な建設改良事業に、越戸川第1号雨水幹線整備事業があります。この事業は、1億7,001万4千円という予算をもとに、平成28年度の施工を予定しておりました。
	この事業については、平成28年5月頃から埼玉県との協議を継続的に行いましたが、協議が整わず、地方公営企業法に基づき次年度への繰越しを行うこととなりました。そのため、この事業は平成29年度に実施いたします。
	資料4に添付した地図をご覧ください。図の黄色い部分が、工事を予定している管が排水を担う区域である越戸川第1排水区で、28.38haございます。境界線の一部に並行して、オレンジ色の線が引いてありますが、これが新設予定の雨水管です。平成28年度は、越戸川の吐口の工事と上流側に管を延ばす工事を予定していましたが、これを平成29年度に実施いたします。
長 坂 会 長	本来は、平成28年度に終了するものだったのですか。
下水道課長	そうです。
長 坂 会 長	平成28年度11月頃から平成29年2月頃にかけて実施する予定でした。
	平成29年度に移す事業であっても、資料1の予算書には反映されないものなのですか。
下水道課長	

はい。地方公営企業法第26条に規定された建設改良事業に係る繰越しのため、平成29年度の予算には反映しません。ただし、今後市議会への報告は行います。

長 坂 会 長
上下水道部長

また、この事業は、全長約750メートルを5年間で布設する計画でしたが、平成29年度から開始することになるため、工期は一年ずつずれていくことになります。

平成29年度の費用の計上はどうなりますか。

平成29年度の資本的収支である4条予算の歳出に事業費の約1億7千万円を組み込むこととなります。歳入については企業債と国庫支出金の額を平成29年度予算に組み込むこととなります。

長 坂 会 長
上下水道部長

一般の企業の会計とは違うのですね。

長 坂 会 長
上下水道部長

はい。

決算時に、損益計算書に反映しますか。

資本的収支である4条予算に関するものなので、貸借対照表に反映されます。

船 越 委 員
下水道課長

今後の事業費は、約1億7千万円の5倍ですか。

詳細な数字は手元にありませんが、単純に5倍ではありません。最初に予定している吐口の工事費用が最も高額になると考えていますが、この地域は道路内の埋設物が多い地域ですし、工法や管の形状によっては今後の費用が増えることが考えられます。

長 坂 会 長

その他、ご質問はございますか。

無いようですので、以上で、第13回和光市下水道事業運営審議会会議を終了いたします。

ありがとうございました。